

4週間という短い間でしたが、大変お世話になりました。新城市民病院のスタッフの皆さんは指導医の先生方、看護師さん、事務の方、食堂の方々まで大変気さくで、温かく、本当に過ごしやすい、働きやすい環境であり、研修内容も大変充実したものとなりました。

まず、初診の外来についてです。普段救急外来ではその患者さんが緊急で処置が必要な状態かどうかを第一に考えますが、初めてこちらで平日の外来を経験させていただき、その時点での緊急性だけではなく、今後の展開を予測して患者さんと向き合い、再診をしなければならない兆候やタイミングを説明して、適切にフォローする。また、処方に関しても、通常の処方では効果がない場合に次の手、たとえば漢方だとか、別の疾患を疑い更なる検査の追加など、外来診療の基礎を教えていただきました。豊橋市民病院に戻り3年目以降、総合内科外来を行っていく上で、勉強になることばかりでした。

続いて、訪問看護、訪問リハビリについてです。今回訪問看護では4件のお宅を、訪問リハビリでは2件のお宅を訪問させていただきました。訪問看護では要介護5の方から、比較的自立している方、また、ご家族の手厚い協力が得られているケースから、あまり積極的な介入がない家まで様々でした。同じ訪問看護というくりでも、さまざまなサービスの提供の仕方があるのだと感じました。訪問リハビリでも見学させていただいた2件ではほぼADLが自立している人と寝たきりの人と、対極的でした。しかし、どちらもリハビリをすることで目標ができ、活動性が低くなることでなかなか感じにくくなってしまいう達成感などを得られるため、週に1回でも本当に大切なサービスだと感じました。それぞれをつなぐMSWの方にお話を伺ったことも大変良い経験になりました。

介護老人保健施設の見学では施設における医療の提供の大変さを目の当たりにしました。限られた医療資源で高齢者を診ることは検査に頼り切っている現在、大変難しいことです。作手診療所も同様ですが、血液検査が容易にできない状態で信頼できるのは自らの身体診察の能力となります。勉強不足を痛感し、これからの勉強につなげようと思いました。

名郷先生によるEBM勉強会では論文を読むことの面白さを勉強させていただきました。これまで論文といえば各研修先でデューティーとして課される抄読会でいやいや読むというケースがほとんどでしたが、できるだけ省エネで論文を読むテクニックを教えていただいた今、目の前に論文があっても、ひるまずに戦える気がしています。これからちょっとしたことを自分で調べて経験値を積んでいきたいと思います。

また、朝の勉強会は私にとって大きな収穫となりました。朝の勉強会は豊橋市民病院でも行われているのですが、研修医がパワーポイントを作って研修医に発表をするという形をとっています。これだと準備に費やす労力がおおきく、発表する側としては負担がかなり大きいものでした。新城市民病院で行われている、気になる記事をみんなで共有するという形は労力がすくなく、得られる知識が大きいという点で大変すばらしいシステムだと感じました。

最後に4週間という短い間でしたが、関わって下さったすべての皆様に感謝を申し上げます。地域医療を勉強する大変良い機会となりました。ここで学んだことを生かして、これからの診療に役立てていきたいと思っています。本当にありがとうございました。